

第15回マネジメントセミナー

「超軽量次世代小型風力発電機・エアドルフィン」を開発

～世界へ販売～

ゼファー株式会社 代表取締役社長 伊藤 瞭介 氏

2月14日、横浜情報文化センターにてゼファー(株)伊藤社長をお招きしご講演戴いた。

日本は環境に対する意識が諸外国と比べ遅れを取っており、非常に寂しい現状である。かつて栄えた文明(ローマ、メソポタミア等)は、全て環境破壊によって最後は滅びている。今、私たちは再びこれを繰り返そうとしており、これに対して真剣に考える時期に来ている。

社名の由来は、会社創設時のパートナー安西氏とギリシャ神話のゼフィロス(風の神様)が吹かせる安らぎの西風より「ゼファー」とした。

<風力発電に新風>

これまでは世界中に多くの小型風車があったが、いつ壊れてもおかしくないようなものばかりであった。そこで、私たちの知恵と知識を挿入すれば新しい価値が生まれ、かつ小型の量産でコストを抑えることができ、風力発電界に新しい風を吹かせようとした。

<物づくりへのこだわり>

物づくりは、知識、知恵、挑戦、感性、ドラマ。物づくりの原点は、加工の中にどういった付加価値を見つけられるかである。最近の日本人は、知恵を出すことが少なくなった。感性は、コミュニケーションであり、磨くことができる。

<産学官協同プロジェクト>

産学官協同の難しさは、誰が棒振り(指揮)をするかということ。プロジェクトには心の繋がりが大事であるが、この繋がりを誰がどうやって引っ張るのがポイント。伊藤氏は、本当にこのプロジェクトを実現したいという技術屋を見つけ、その技術をその会社のトップへ繋げ、やがて一つの研究事業として認知されるようにした。そ



の過程の為に、惜しみなく人に会った。

<小型風車だからできること>

軽量化(発電1W当たりの重量を17.5g。大型の場合100g超)、無停止運転により利用率アップ(大型風車は20m/秒超で停止)、ビル風などの乱流も歓迎、場所を選ばない(ビルの屋上、山岳地など)、メンテナンスフリー、輸送コスト軽減、量産によるコストダウンの期待。

<エアドルフィンへ搭載した新しい機能>

フクロウの羽をヒントにブレード風切り音低減、羽とハブの取り付けをネジなし箱根寄木細工工法を採用、魚の尾ひれをヒントにスイング・ラダーを発明し発電量向上。その他にも風の弱い時にパワーアシスト機能搭載と多彩な機能を搭載している。

テストは、トラックの荷台にエアドルフィンを載せサーキットを走り回り、測定器も積んで実施。

最後に、2/6に日本テレビで放映された「笑ってコラえて・・・いけてる会社訪問」の映像を会場の皆様にご覧戴いた。

その後の質疑応答では、実際に設置する上での留意点等の質問が多く、皆さまの関心の高さが伺えた。講演会後も多くの方が伊藤社長と名刺交換をされた。